



ここ数年続いている円安は、輸入品の価格を押し上げ、日本のインフレ要因の一つとなっています。一方で、海外資産に投資していた方にとっては、円安による為替差益が収益にプラスに働く場面も多かったのではないのでしょうか。

しかし年明け以降は為替相場を巡るニュースが増えており、「為替変動リスクをどう管理するか」という点に関心を持つ方が増えてきました。

そこで今回は、為替変動リスクの影響を抑える方法として代表的な「為替ヘッジ」についてご紹介します。

名称の中に「為替ヘッジあり」と表記された投資信託は、実は少なくありません。

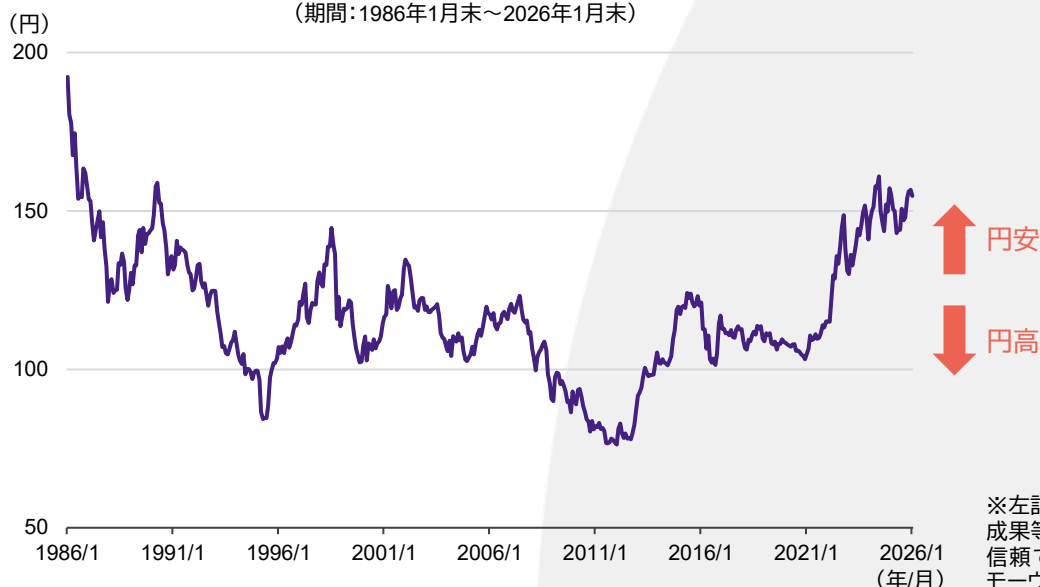


歴史的な安値圏にある米ドル／円相場

内外金利差の拡大、日本の貿易赤字の定着、さらには財政運営への不安など、複数の要因が重なったことで、米ドル／円は1990年頃以来となる安値圏で推移しています。こうした状況が長引く中、最近では、日米金利差の縮小や日米中央銀行のレートチェックに関する報道も見られるなど、円高方向への動きを意識する場面も増えてきました。

米ドル／円の推移

(期間: 1986年1月末～2026年1月末)



※左記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

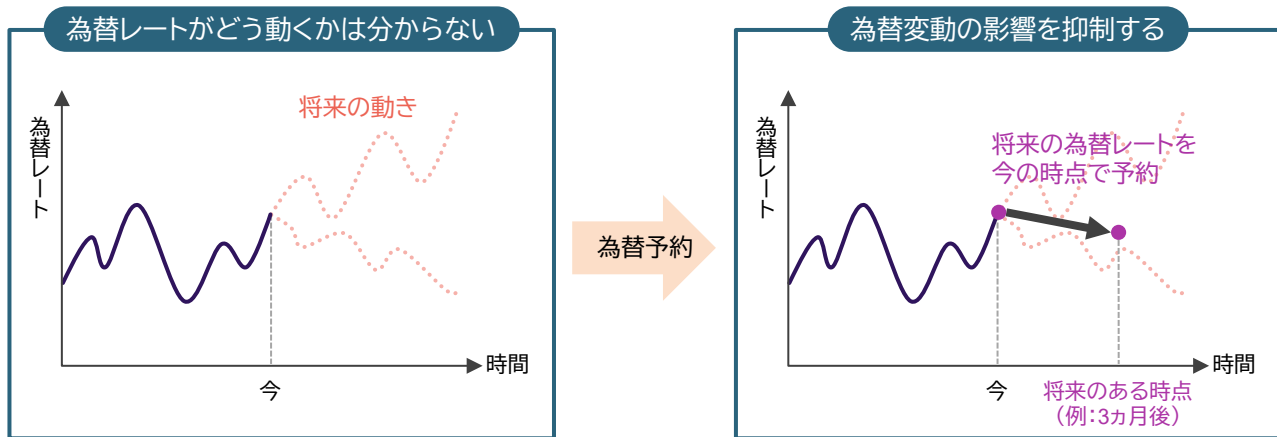
当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

「為替ヘッジ」とは何か？

今後の為替相場が円高方向に進むと考える場合、その影響を抑えるために役立つのが「為替ヘッジ」です。「為替ヘッジ」とは、将来の為替レートをあらかじめ決めておくことを指し、一般的に「為替予約」という手法が用いられます。

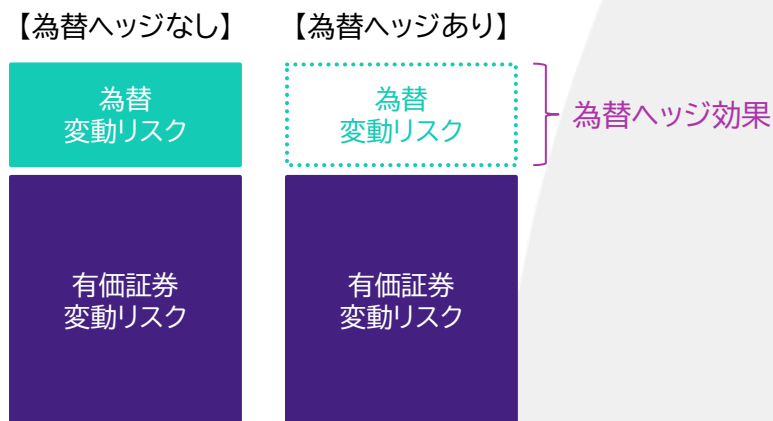
例えば、「3カ月後に1米ドル＝〇〇円で交換する」という契約を今の時点で結んでおくことで、その間の為替変動による影響を受けにくくすることができます。



※上記はイメージです。

「為替ヘッジあり」の投資信託が選択肢に

海外資産に投資をする場合は、有価証券(株式や債券など)の価格の変動に加えて、為替の変動によるリスクも生じます。「為替ヘッジ」を活用することで、この為替変動リスクを抑えながら海外資産に投資することが可能になります。こうした仕組みを取り入れ、為替リスクの影響をできるだけ小さくすることを目指すのが、「為替ヘッジあり」の投資信託です。



例えば、「海外株式の値上がりを期待しているけど、円高への備えをしておきたい」といった場合に、為替ヘッジは有効だと言えます。



※上記はイメージです。為替ヘッジコスト／プレミアムは考慮していません。

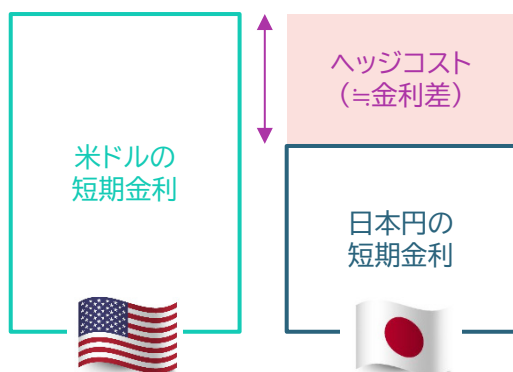
「為替ヘッジ」にはコストがかかる？

投資成果を資産価格に限定できるのは魅力的ですが、為替ヘッジには「ヘッジコスト」という費用がかかることがあります。

「為替ヘッジ」を行なう際には、将来に円へ交換してくれる相手（ヘッジの取引相手）が不利にならないよう、交換までの期間に生じる金利差相当額を支払う必要があります。そのため、金利の高い通貨を保有している投資家が、金利の低い通貨に対してヘッジを行なう場合には、金利差を支払う形となり、この費用が「ヘッジコスト」と呼ばれています。

為替ヘッジコストのイメージ

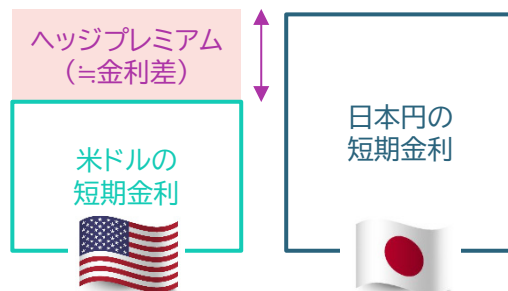
海外の金利が高い場合にヘッジコストが発生



※上記はイメージです。

もしも、内外金利差が逆転したら...

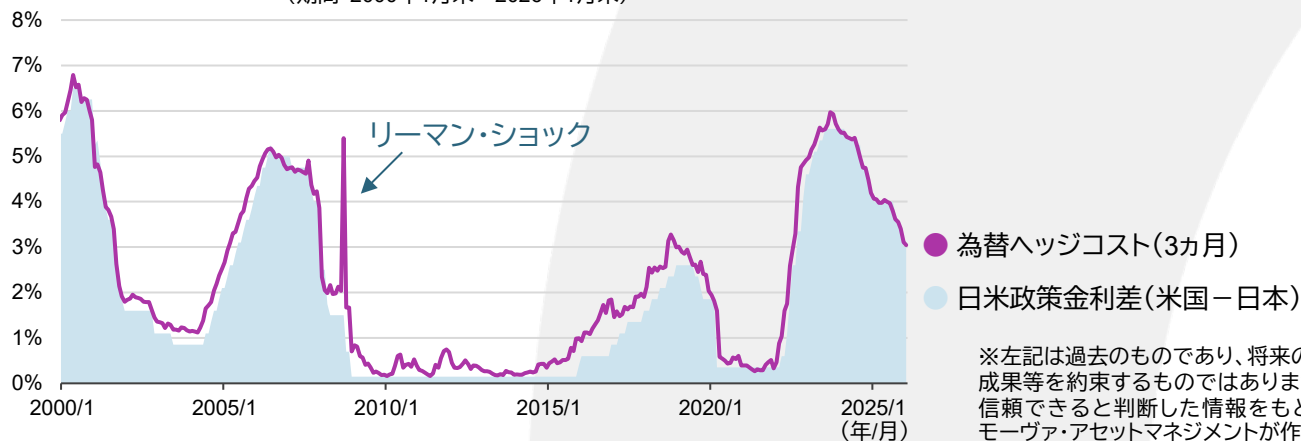
日本の金利が高い場合は
ヘッジプレミアムが発生
＝収益要因になる



現在は、日本の金利が主要国に比べて低い状況が続いています。このため、海外資産を円にヘッジする場合には、当面ヘッジコストが発生しやすく、結果として運用成果を押し下げる要因になり得る点には注意が必要です。

日米政策金利差と為替ヘッジコストの推移

(期間: 2000年1月末～2026年1月末)



2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

メリット・デメリットを理解したうえで選択を

為替ヘッジには、為替変動リスクを低減できるというメリットがある一方で、ヘッジコストが発生する場合があります。また、複雑な要因が絡み合って為替は動くと言われていることもあるため、「為替ヘッジを行なった方が得か損か」を言い切ることはできません。

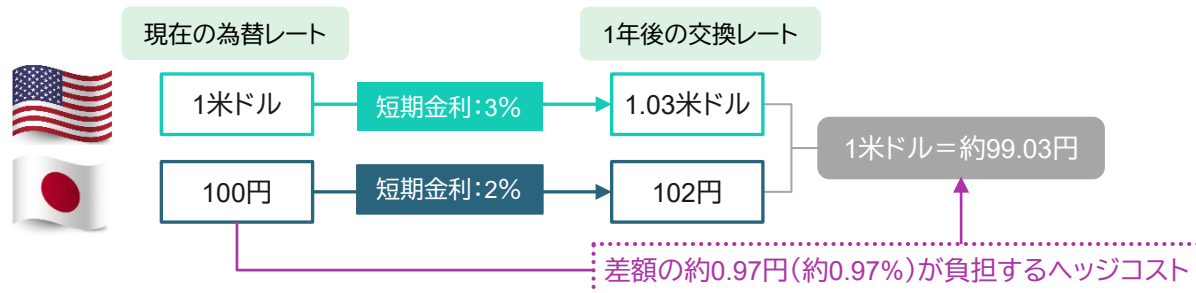
	為替ヘッジあり	為替ヘッジなし
メリット	為替変動リスクの低減が期待できる	為替差益を得られる可能性がある
デメリット	為替ヘッジコストがかかる可能性がある	為替差損が生じる可能性がある

海外資産に投資する場合には、「投資対象資産の値動き」×「為替レート」の2つの要素によって評価額が変動します。したがって、為替の動向を気にし過ぎて、そもそもの投資判断を見送ってしまうのは少しもったいないと言えるかもしれません。そのため、為替ヘッジは「為替変動の影響をあまり受けたくない場合の選択肢」と捉えるのがよさそうです。

大切なのは、為替ヘッジの仕組みを正しく理解したうえで、ご自身の資産形成の目的に合った選択をすることです。運用で何を重視するのかを整理しながら、ヘッジあり・なしを検討することが重要だと言えるでしょう。

ご参考 | 為替ヘッジコストの計算例

日本円の短期金利を年2%、米ドルの短期金利を年3%と仮定した場合



※為替ヘッジを完全に行なうことができない場合などもあり、実際には、金利差の全てが為替ヘッジコストになるとは限りません。

